《全国納税貯蓄組合連合会優秀賞》

人を繋ぐ税

八王子市立楢原中学校
三年　岩浅　楓

「税の大切さ」私がそれに気づいたのは中学三年生になった最近だったのだ。私は税というものに対して、なぜ払うのか。無くなってほしい。というふうに勝手に迷惑がっていた。何気ない日常の中で気づくまでは。

中学三年生になり税についての授業を受けた後日に母と病院に行った会計のとき、隣にいた中年の来院者が払ったお札と私が払った二百円を見てはっとした。私は税金のおかげでなんの躊躇もなく病院に行けるのだと気づいた。税金へのありがたみと同時に、もし税金が医療費を負担していなかったら私は医療を受けらていなかったかもしれないと思い、怖くもなった。

そこで、税と医療について調べると衝撃を受けた。まず風邪の診察や歯の検診は本来、一万円前後かかることだ。病院で受けられる本来は高額な医療サービスは国民全体で負担し合い、医療費の一定範囲額を国が支払うことによって個人負担を軽減できるようになっているという。次に、基本的保健サービスを受けられずにいる国があることだ。所得が低く貧困層が多いアフリカや南アジアでは自己負担の医療費が重く家計にのしかかる。それに対して医療費のほとんどが税金でまかなわれ、無料という国があることも衝撃的だ。調べてみてさらに税金の大切さを思い知った。今まで私は税金をマイナスなイメージで捉えていたが、今の私は税金は、「命を繋ぐバトン」のように捉えている。税金はただ払うだけのように思う人も大勢いるだろう。しかし、国民の誰もが税金の恩恵を受けているはずだ。そしてこの恩恵は人と人との思いやりに似ていると私は思う。もちろん実際に思いやりの気持ちで税金を払っている人などいないだろう。けれど、誰かが払った税金がどこかで自分に使われ、自分の払った税金が誰かのために使われる。やはりこれは思いやりの形に似ている。一人一人がみんなのために、みんなが一人一人のために、自分が払った分困ったときに返ってくる。税金の仕組は素晴らしい。つまり、人を繋ぐ税のバトンは「命を繋ぐバトン」といえるのではないか。

ところで、この間増税予定についてのネットニュースを見た。そこには増税が非難的に取り上げられていた。大半の人も同じような気持ちになるだろう。しかし税への考え方が変わって新たな視点を持った私は増税に悪いイメージは持たなかった。国民全体が増税に納得するためには、気づきにくい税の恩恵が無駄なく必要とする国民にいきわたることが大切だと思う。

「税の恩恵を無駄にしない」ために私にもできることがある。それは税金が負担する教育費を無駄にせず将来社会に貢献することだ。そのために今の私に出来ることは一生懸命に勉強することだ。日々の授業を大切にし、そして税のバトンを受け取り次へと繋ぐ人の中の一人として誰かの役に立ちたい。

《東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞》

納税は「幸せのタネまき」

八王子市立七国中学校
三年　長尾　礎

私は、「税金」という言葉に対して、正直、あまり良いイメージは持っていなかった。なぜなら、歴史の学習で、重税の負担で苦しんでいる様子を描いた風刺画などをたくさん見てきたからだ。しかし、数年前、そのイメージは大きく変わった。

その頃、私の母は精神的な不調から体調不良に陥った。毎日、寝たきりのような日々が続き、家族の団らんは崩れ去った。そのため、私と年が九つ離れた弟の世話が困難になり、一歳のとき、保育園や子ども家庭支援センターを利用することが増えた。弟と通ううちに先生に勧められて、夏休み中に小さな子供たちと遊ぶボランティア活動を体験させてもらった。ボランティア活動は、子育ての大変さや大切さを身をもって知る、良い経験となった。それらの施設のおかげで、母は少しずつ気が楽になり、体調が回復していった。家族に活気と笑顔が増え、普段通りの暮らしが戻った。

ボランティア活動中に、その保育園や子ども家庭支援センターの運営に税金が使われているということを知った。そのことを知り、私の税金に対する考えは変わった。

「税金のおかげで、私達は元通りの生活を取り戻すことができた。税金で困っている人を助けることができるのだ。」私はそう思うようになった。

お世話になった子ども家庭支援センターについて、調べてみると、全市区町村に設置を行う努力義務が課されたらしい。しかし、あくまでも努力義務であるため、本当に全ての市区町村に設置されるとは限らない。そのため、私達国民の納税による助けが必要不可欠になる。子ども家庭支援センターは、私の母のように、子育てに困っても身近に頼れる人がいない人を助けるだけでなく、虐待を受けている子供や貧困家庭への支援、そして、現在社会問題になりつつある、「ヤングケアラー」の補助をすることができる。納税はこのような人たちを間接的に援助することにつながるのだ。また、少子化対策にもつながり、ヤングケアラーの問題と同様に社会問題が少しずつ解決する手助けになるだろう。

「納税は義務」という考え方が現在の日本には根付いてしまっているため、納税を喜んでする人はなかなかいないだろう。しかし、「納税は社会貢献」と考えれば、なんだか良いことをしたように感じるのではないだろうか。納税によって、社会問題が少しずつ解決していく。そして、みんなが安心して幸せに暮らせる社会になっていく。そんな「幸せのタネ」を育んでいけるように、みんなが支え合って協力していく社会を築いていければ、良いと思う。

《東京納税貯蓄組合総連合会長賞》

不安を安心に変える税金

八王子市立第一中学校
三年　安　達　優　愛

小学五年生だった二〇二〇年。突然学校は休校になりました。新型コロナウィルス感染症が広がり、日常は一変しました。私は毎日家の中で過ごし、勉強は宿題をしたり、学校が推奨するホームページを見たりしていました。当たり前だった授業を受けるということも、友達に会うということも出来ない日々。とても不安でした。約二カ月後、感染対策をして登校再開。まず学校には消毒液が設置されていました。そして一人一台端末が貸し出され、オンライン授業が可能になりました。再び学級閉鎖や休校になってしまっても、家から授業を受けることができ、先生や友達の顔が見れるので安心できました。

これら消毒液や貸し出された端末は、税金で用意してくれた物でした。それは税金の使い道に「教育費」の学習環境の整備があったからです。国は小中学校に多くの税金を使って、コロナ禍でも安心して学びを続けられる環境を作ってくれたのです。他にもＰＣＲ検査・病院の受診料やお薬・感染者世帯への食糧支給・ワクチン接種・救急車など。これらも全て税金によって賄われました。おかげでＰＣＲ検査で陰性を確認してから安心して行動することができたり、感染してしまっても、お金の心配なく病院を受診することが出来ました。また親が感染してしまった時には、食料に困ることなく自宅待機が出来ました。

コロナは私達をとても不安にさせましたが、税金はその不安を「安心」に変えてくれました。国民のために使われ、私達の生活を守ってくれました。日本には税金という備えがあったので、直面した困難に対応ができたのだと思います。以前は、買い物をして商品代金以外に消費税を支払うことにネガティブな気持ちがありました。しかし今は、自分の支払った消費税が何かの役に立つのかもしれないとポジティブな考えに変わり、納税の大切さを理解するようになりました。

正しく納税することは、日本の未来を守ること、そして多くの人を救うことに繋がっていることに気づきました。だから私は納税は「思いやり」だと思います。沢山の思いやりのおかげで、コロナ禍でも安心して学校生活を送れたこと、日本全体が頑張ったことを私は大人になっても忘れません。災害はまたいつ何がくるか分かりません。いざという時の為に、国民は税金で備えておく必要があると思います。将来社会人になったら、これまで税金からもらった安心に感謝し、しっかり納税していきたいです。沢山の人に思いやりと安心が届くことを願って……。

《東京納税貯蓄組合総連合会長賞》

税は誰かの未来のために

八王子市立いずみの森義務教育学校
九年　井　介　　栞

私は、普通の公立中学校に通っている普通の中学生です。税に関する作文で優秀な成績をおさめている人の作品を読むと、被災した経験があったり、身近に障がいがある方がいたりと、税に助けられた体験が多く書かれています。ですが、私にはそういった経験がほとんどなく、税の恩恵を感じることはあまりありませんでした。

その考えが大きく変わったのが、今年の夏。高校受験を控え、私立高校に見学に行った時のことでした。併願の学校にするつもりで見に行った学校は、思っていたよりもいい学校でした。この学校に行ってみたい、と思ったのです。しかし、そこはやはり私立高校。都立の学校とは比べ物にならない額が記載された書類を見て、私は驚きました。私立は学費が高いことは知っていましたが、こんなにも違うとは思っていなかったのです。私の家は決して貧乏なわけではありません。それでも、百万円を起える学費は、簡単に払ってと言える金額ではありませんでした。行ってみたいけれど、こんなに高い学費を払えるのか。そう思った私の目に入ったのは、学費の欄の下に書かれた「私立高等学校等授業料軽減助成金事業」の文字でした。私立高校に進学する場合、世帯年収が九一〇万円未満の家庭に対して都が最大で四六万七千円もの助成金を支給してくれるというものです。母は、この学費を丸々払うのは難しいけど、都の補助を受ければこの学校でも通えるよと言ってくれました。この事業の元になっているのは、私たち都民が納めている税金です。特別な環境にいるわけではない普通の私にも、税金の恵みは確かに届いていたのです。一度自覚してみると、周りには税が形になったものが数えきれないほどありました。例えば、私が毎日通っている学校の校舎。最近新しく建て替えられたピカピカの建物にも市や都の税金が使われているのです。他にも、二年間部活に打ちこんだテニスコートや、勉強に欠かせない教科書、当たり前のように受けていた教育。気づかなかったことが恥ずかしくなるくらい、税の恩恵は周りに溢れていました。私が今こうして当たり前に普通の中学生でいられること、お金の心配をせずに教育を受けられること。そして何よりも、未来への選択肢を狭めずにいられたこと。普通のことだと思っていたそれらは、私の家族や、友達や、顔も知らない誰かが日々払っている税金に支えられていたんだと実感しました。

その私立高校に本当に進学するのかはまだ決めていません。でも、私立の学校と都立の学校どっちにしようかな。そんな悩みをもてること、それ自体が税金のおかげなんだと今は強く感じています。買い物をするたび払う消費税や、両親が毎月払っている住民税。毎日のように払うこういった税が、どこかで誰かの未来のために役立っていたらいいなと思います。

《東京納税貯蓄組合総連合会長賞》

税金のない世界

八王子市立由井中学校
三年　岡田風花

「税金」と聞いて消費税以外の税が思いつく中学生はあまりいないのでないだろうか。幸いなことに消費税以外の税は直接払わなくて済んでいるので、買い物をするとき八％や一〇％という税金の計算が煩わしいくらいだ。でも私達の親は違う。「今年も固定資産税の通知が来た。」「自動車税の請求も来た。」とため息をついている。消費税もそうだけれど、税金＝ネガティブなイメージしかない私は、「税金のない世界」を想像してみることにした。

税金のない世界とは、さぞハッピーな世界なのではないのだろうか。もし税金がなければ貯金が多くできる、家族旅行の回数が増える（もしかすると海外にも行けるかもしれない）お小遣いが上がる、マンガを一冊多く買えるなど我が家にとって良いこと尽くめだ。

では税金がなくなったら、どんなデメリットがあるのだろうか。私にとって一番身近な「学校」について想像してみることにする。税金がなくなれば、先生の給料は保護者が直接学校に支配うことになり「月謝制」になるかもしれない。現在、税金で支給されている教科書は各自購入することになる。校舎の老朽化が進んで建て替えや修理が必要になった場合、保護者から徴収するようにもなるだろう。机や椅子なども個人の持ち物になるかもしれない。もしかすると「人気のある先生の授業料が上がる」ということもあり得る。学校に通えればまだいい。これではお金がなくて学校に通えない人が出てくる。

ここで私はあることに気がついた。これでは社会の授業で学習する「教育の機会均等」「ひとしく教育を受ける権利に反するのではないかと。気付けば全国至るところに公立学校が設置されていて、経済状況関係なく誰しもが通うことができる。これは税金のない世界では成りたたないはずだ。もちろん教育に留まらず、医療や福祉などにおいて税金は「国民の権利を守る」役割を果たしているのだ。つまり納税はそれらの権利を守るために国民の「義務」という位置づけになっているのだろう。

ただし、「義務だから」と言って、何も考えずに納めていればよいというものでもないと思う。ときどき税金の使い方について、適切だったのか議論する場面を目にすることがあるが、中学生の私から見ても「残念な使い方だな」と思うことがある。残念ながら「お金を出す人」と「使い方を考える人」の間でこのようなミスマッチが起こることもあるだろう。だからこそ今国民が納めている税金の額や使い方が適正なのか、関心を持ち、声をあげることで、より良い使われ方が検討されていくのだと思う。より良い自分、より良い日本のために税金について関心を持ち続けたい。

《東京納税貯蓄組合総連合会長賞》

幸せな日常をつくる税

八王子市立いずみの森義務教育学校
九年　若　月　美　玖

私は、「税」という言葉を聞いてもいまいちピンとこない。たぶん、小学生に「税のこと教えて。」と言われても、私は「国に納めるお金だよ。」としか教えられないだろう。ただ義務だから納めていて、実際のところ、どんな目的があるのか全く分からない。

しかし、税は身の回りのどんな物に使われているのだろうと考えたとき、私の税に対する考えは変わった。それは「学校」だ。

私達の学び舎、いずみの森義務教育学校は施設の老朽化などを理由に、令和三年度、新校舎の整備が実施された。この建て替えの費用が税金でまかなわれているのだ。私達が毎日、豊かな自然と調和した快適な環境で学習ができるのは、税のおかげなのだと、思い知らされた。さらに、私達の学校で一人一台配布されたパソコン。これも税金によって買われたものである。毎日、あたりまえのように使っているパソコンにも税金がかかっているとは考えもしなかった。授業でプレゼンテーションの作成をしたり、調べ学習でインターネットを利用したりするのに欠かせないパソコンは、私の学びを豊かにしてくれる。私は税に感謝の気持ちが芽生えた。

他にも、教室にある机や椅子、黒板、プロジェクター、私達が今使っている教科書。今挙げただけでも、こんなにたくさんの物が税でまかなわれている。税があってこそ、私たちの日常があるのだ。

税を納めることは、国民の三大義務である。だから、増税のたびに、納税に対する不満や払わされているという気持ちが生じることも少なくないと思う。しかし、税は私達の生活を豊かにするものである。税があるから、私達は何不自由なく生活ができている。

ぜひ、「もし、税がなくなったら、私達の生活がどうなるか。」ということを考えてみて欲しい。あたりまえのようにあった学校、あたりまえのように処理してくれるごみ、あたりまえのように負担してくれた医療費。それら全てがなくなってしまうことを。

私は、その「あたりまえ」の有難みに気付けることが大事だと思う。税はこれから先、高齢化などを理由に増税していくだろう。私はそれに対し、否定的な考え方をするのではなく、税の使われ方を知った上で受け入れられる大人になりたい。だれもが安心して、幸せに暮らせる未来のために。

《八王子税務署長賞》

スーパーヒーロー

八王子市立由木中学校
三年　上野　椎

「家族全員が救急車にお世話になったね。」と母が呟いた。

母が先日体調を崩し、救急車で運ばれた。過去に父は交通事故で、兄は体調を崩し、救急車で病院に運ばれた。私もまた小学生の時、肺炎で病院に運ばれたことがある。我が家では四回も利用している救急車だが、救急車の利用料は発生しない。つまり、救急車は「税金」によって運用されている。

総務省によると、令和四年度の救急車の出動件数は全国で約七二三万件であった。一日の平均を計算すると、約二万件である。救急車が一回出動するのにかかる値段は、約四万五千円だと言われている。計算すると救急車だけで一年に三一五二億円もの費用が使われることになる。しかし、日本はその費用を全額税金によって補っている。さらに調べていくと、海外では、救急車は有料というところがほとんどだということが分かった。国によっては、十万円近くを請求するところもあるという。これを知って、私はおどろいた。日本はどこにいても、どんな状態であっても、利用料を払わずに利用することができる。救急車を無料で利用することが当たり前ではないということを感じた。救急車を無料で利用できることで救急車を呼びやすいため、命を救われた人も少なくないだろう。

一方で、緊急性がないのに救急車をタクシー代わりに使う人が増えているようだ。このような人が増えると、必要な人が使えなくなってしまうだけでなく、税金も必要以上にかかることになる。みんなが利用しやすい救急車が税金だけでは支えきれなくなるかもしれない。

救急車の有料化も考えられる。もし有料になったら、軽症の人がむやみに利用することが少なくなり、その分の税金を他のことにまわすことができる。しかし、本当に必要のある人が救急車を呼ぶのをためらってしまったり、料金を払えない人が出てきたりするかもしれない。

四回利用している我が家はどうだろう。四回で約十八万円になる。自分が体調を崩した時に救急車を呼ぶだろうか。救急車を呼ばずに、フラフラになりながらも自ら病院に行く選択をするかもしれない。

私たちが救急車を無料で利用できるのは当たり前ではない。税金が私たちのために社会を回してくれる。私たちが納める税金で、命を救われる人がいる。そう思うと、なんだかスーパーヒーローになった気分だ。私は大人になっても、今も、誰かのスーパーヒーローになっていると思い、税金を納め続けたい。税金によるこのシステムを未来へと繋いでいきたい。ささいなことでも、「社会を支え、支えられる」そんなスーパーヒーローになりたい。

《八王子税務署長賞》

日本とデンマークの税制の違い

八王子市立由井中学校
三年　桑原龍大

僕は、幼い頃から喘息とアレルギーを持っていて、今でも毎月病院を受診し、薬を出してもらっています。母は高校生になると医療費がかかるので中学校卒業までに治して欲しいと小学生の頃から話していました。今回、税金の事を調べてみて、その意味がようやく分かりました。僕たちの住む八王子市は中学卒業までは医療費の負担がなく、それも税金で賄われているそうです。僕に身近な税金は消費税しか思い浮びませんが、父は他にも給料から引かれる所得税、自動車税、自宅の固定資産税など、かなりの高額の税金を納めていると嘆いていました。

日本の税金はそれほど高いのか調べてみました。すると、海外では更に高い税金を納める国がありました。それは幸福度ランキングでも世界一とされるデンマークです。なぜ、デンマークの人達は高い税金を納めなければならないのに不満もなく、幸福度が高いと感じることが出来るのか。僕は非常に興味が湧きました。まず日本の消費税は十パーセントですが、デンマークは二十五パーセント。更にデンマークの所得税は給料の三分の一が所得税として徴収されるそうです。なぜ、国民の税負担がこれほど大きいのに幸せに暮らすことができるのか。それはデンマークが福祉国家といわれるほど医療や福祉サービスの提供が充実しているからです。例えば医療費は子供だけでなく、大人も一生無料です。更に保育園から大学までの教育費も無料だそうです。歳をとり高齢者となると介護サービスも無料で受けられ、お小遣いまでもらえます。そう考えると税金が高くても、日本のように高い教育費を気にしたり、高額な費用がかかる老人ホームの心配をしたりする必要がありません。ほとんどの公共サービスが無料であるため、デンマークの国民は教育費や老後の心配をするストレス無く、自分の趣味を楽しみながら暮らすことで日本には無い高い幸福度が得られるのだと思いました。一方、日本は税率が少しでも上がると、不満が生じ脱税をしたり、滞納する人がでてきます。では、どうすればデンマークのように国民が納得し、マイナスイメージの無い納税ができるのでしょうか。現在の日本とデンマークの制度は全く違いますが、日本でも大切な税金で賄われ僕たちも恩恵を受けているサービスや施設はたくさんあります。この九月から始まる学校給食は八王子市の貴重な税金であり、母は高い税金を払ってきた甲斐があったと非常に喜んでいました。

日本がすぐにデンマークのような福祉を実現する事は不可能ですが、国民が支払った税金がどのように使われているのかをもっと積極的に公表し、納税者が納得し前向きに納税できる環境づくりが重要だと思いました。僕も大人となり納税をする立場となった時にはしっかり納税をして、その税金がどんな風に使われるのか関心を持てる大人になります。

《東京都八王子都税事務所長賞》

一番正しい税の道

八王子市立第二中学校
三年　小　川　詩　織

税の正しい使い道とは、一体何なのでしょうか。健康や安全が守られる事でしょうか。あるいは、自分の国を守る事でしょうか。はたまた、海外援助をする事でしょうか。人それぞれ正しいと思っている税の使われ方はあると思いますが、「一番」正しい税の使い道を問われた場合、その回答は同じような立場、似たような境遇の人と被る事になるでしょう。私が、このように思った理由を二つの税にふれながら説明していきたいと思います。

まず、一つ目に気になった税は消費税です。消費税は、買い物をするときに八パーセントから十パーセントの税金がかかり、もちろん私達中学生が買う物にも年齢関係なくかかってくる税で最も身近な税といっても過言ではない程、認知度が高い税です。だけれども、その消費税の使われ方を知っている人は、あまり多くはないのでしょうか。そこで、ＳＮＳを使って消費税の使われ方について調べてみた所、約九割は、年金、医療、介護、子育て等の社会保障に使われています。この税金を様々な視点でみていくと、お年寄りの方、子育てをしている方にとってはとても嬉しい使われ方で、この使い道は正しいと考えるでしょう。逆に言えば、前述のような状況でない方は、あまり良い使われ方だと思わない方もいると思います。

次に所得税についてです。所得税は、以前私の学校に税理士の方が来てくださった時に年収の差がある三つの世帯から何円の税金をとれば良いのかという話し合いをしたときに初めて知った国に納める国税です。所得税は、国民間の所得格差を調整する役割を担っていて、所得の少ない人には軽い負担、所得の多い人には重い負担になっています。私は、所得の少ない人の立場になると優しい税のかけ方だなと思いますが、所得の多い人の立場になると厳しい税だなと思いました。

このように、税の使われ方や集め方に対する感じ方、考え方は、その人がおかれている立場や境遇で大きく変化し、常に賛否両論になっています。だからこそ、税は様々な種類や決まりがあることで一部の人だけが豊かになったり、悲しんだりしないような仕組みになっているんだなと思いました。

「十人十色」ということわざがあるように、十人の人が一番正しい税の使い道について議論したら、全員異なる意見かもしれません。しかし、それは悪い事ではなく、むしろ良い事なのかもしれません。多種多様な税があれば、多種多様な考えが生まれる。そして、その考えを押し付けずに、冷静に話し合い、理解し合い、認め合う事で、「一番正しい税の道」へと導かれ、より良い未来へ繋がっていくのではないでしょうか。

《東京都八王子都税事務所長賞》

困った時はお互い様

八王子市立宮上中学校
三年　名　渕　悠　翔

ニュースを見ていたらガソリン価格上昇と共に補助金の話がでてきた。現在、国際的なエネルギー価格の高騰を受け生活必需品であるガソリン価格を補助金で抑えているが、もうすぐ期限を迎えるということだった。

小学生の頃、私はマレーシアに住んでいた。産油国ということもあったが、ガソリンは販売会社が違ってもどこで給油しても同一価格だと両親から聞いた。今思えばこれは税金によるものだった。

ここ三年位コロナ禍により行動や経済活動が制限されてきたが、その間を支えてきたのも税金だ。医療、飲食、観光業界などへの補助金から私達個人にも配られた給付金など様々な形で使用された。マレーシアでは各個人までの給付は無かったようなので日本はとても恵まれていると思う。

さらにコロナ禍により私達も学校へ通学できず、友達との関わりも希薄になってしまった時期もあったが、学習面においては迅速に一人一台のパソコンを貸与してくれたり、先生方が授業を工夫してくださったおかげで遅れるようなことはなかった。税は私達の生活を支える命綱である。

現在コロナも収束に向かいつつあり、普段の生活を取り戻しつつある。最近は駅やショッピングモールで外国人観光客をよく見るようになった。円安による影響も大きいようだが、観光客が日本でお金を消費することで関連業界や企業の利益が上がり、そこで働く人達の収入も増え、それが消費増、税収増につながり社会へ還元される。この様に経済が循環し、きちんと納税がされていけば、私達の生活はより良いものになっていくと思う。

「困った時はお互い様」という言葉があるが、まさにこれを私達の生活において実現しているのが税だとコロナ禍を通して強く思うようになった。

まだ私は中学生であり、働いて収入を得ること、納税をすることのイメージをすることはできない。納税と聞いて思い浮かぶのは、学校で習った「国民の三大義務」のひとつであることくらいである。

しかし、学校教育を修了した先には私も実社会に出て働き、納税していくことになる。

よくニュースで税負担がきついという話を見聞きする機会が増えているが、税は私達の生活に必要な基盤を作ったり、困っている人達を助けたりするだけでなく、自分も助けられることがあることを肝に銘じておきたいと思う。

昨今税には負のイメージが付いて回っているが、物事には良い面悪い面の両方があると思う。生きていく中では今回のコロナ禍の様に全く想定外の事態に見舞われることもあるが、その時に自分を支えてくれるものの一つに税があると思うので、きちんと良い面についても意識していきたいと思う。

《八王子市長賞》

命を救う職業と税金

私立八王子実践中学校
三年　廣澤佳奈

自分が心から尊敬する人は消防官です。

警察官、自衛官、海上保安官、そして消防官。彼らはいわゆる公務員です。その公務員の中でも命を救う現場で戦っています。それと税金、なんの関係があるんだと思うかもしれません。しかし公務員と税金は切っても切れない関係にあります。なぜなら、公務員の職業のほとんどが税金によって成り立っているからです。救急車や消防車、資機材、装備、そして給料にも税金が使われています。このことを踏まえた上での自分の思ったことを話そうと思います。

一つ目、世の中には先ほど紹介した公務員の人達を「税金ドロボー」と呼ぶ人達が居ます。本当にそうなのでしょうか。頭に思い浮べてみて下さい。事故を起こしてしまったとき、目の前で大切な人が倒れてしまったとき、大災害が起こったとき。わたしたちの所にいち早く駆けつけてくれる人達。自らの危険を顧みず、救おうとしてくれてる人達はまぎれもない、公務員です。このことを知って、公務員は決して「税金ドロボー」ではないと考えるようになりました。

二つ目、みなさんは「器具愛護」という言葉を知っていますか。日本の消防について規定している法律に書いてある言葉を簡単に紹介します。「隊員は訓練施設、機械器具や安全器具に精通するとともに、これらの愛護を心掛けること」。公務員の人達は使っているものをまるで人のように大事に扱います。傷一つつけないように。尊敬する人が「自分達が使っている資機材は一緒に戦う仲間だ。」と言っていたことがあります。彼らはわたしたちの納めた税金で買った資機材のことを命を救うただの道具だと思っていません。一緒に命を救う仲間だと思っています。自分が払った税金が公務員の人達と一緒に命を救ってると思うと少し嬉しくなってきます。中学生の自分が払っている少しの税金に大きな意味があるということを知れて良かったと思います。

最後に今、話題になっている「救急車の適正利用」についてです。最初に紹介したように救急車などは税金が使われています。乗るのも海外と違い無料です。でも忘れないで欲しいのが、乗っているのが人間だということです。税金で作られたロボットじゃないです。人間なのでもちろん限界があります。利用する側が使い方をよく考える必要だと思います。そうしないと助けられる命が助けられなくなります。命を救うためにも適正利用を心掛けて欲しいと思います。

税金を活かすのは人だと自分は考えています。良くも悪くも。税金には命を救う力があるのが事実です。税金の大切さを知ることができて良かったと思います。そして、私はこの税金に感謝しながら人の命を救う消防官に将来なりたいと思います。

《八王子市長賞》

税の大切さ

八王子市立楢原中学校
三年　柳井美香

日頃コンビニ等で買い物をする時に消費税を支払う時以外に税に触れる機会は特になく、私自身、税とは何かについてあまり深く考えたことはなかったです。小学校の社会の授業で「年貢」を学んだ時、年貢はお米で支払う税だが農民が苦しめられていたという話を聞いていたので、私も、「モノを買う時に価格に税を上乗せされて嫌だな」という印象がありました。これを機に税について調べたところ、日本で「税金」といわれる租税は、「国や地方公共団体が公共の財やサービスを提供する為に、国民や企業等に金銭での負担を強制するもの」と書いてありました。そして私はお金にも深い事情がある事を知りました。

私は、生後九カ月から五歳まで南アフリカ共和国、八歳から十四歳までインドに住んでいました。インドで、紅茶栽培で有名なダージリンに家族で旅行に行った時、南アフリカのワイナリーはどれも綺麗だったので、世界的に有名なダージリンという街も、さぞ綺麗に観光地として整備されているだろうと期待に胸を膨らませて行きました。しかし、残念ながら私の期待は大きく裏切られ、空港からダージリンに向かう道路はボロボロで道幅も狭い為、遅い速度でしか進めず、何時間もかかるくたびれる旅路でした。なぜダージリンがこういう状態なのか茶園の人に聞いてみたところ、ダージリンのある西ベンガル州は、モディ首相の政党であるＢＪＰではない為、政府から公共インフラに使える予算をほとんど与えられないという話を聞き、政治的思惑によって税の使途に優先順位が付けられている現実を知りました。

翻って、今の日本とインドを比べると、日本はどこへ行っても、道路は綺麗で、公立学校や公立病院も整っていたが、それに比べてインドの道路は穴だらけ、水道水は飲めない、公立病院などは綺麗に整備されていませんでした。コロナ禍で日本に一時帰国した時、私の姉が頭を打って出血したのですぐ救急車を呼び、コロナ禍で大変かなと思っていたが、電話して五分くらいで家に到着し、すぐ受け入れてくれる病院を探してくれ、治療はすぐ終わりました。インドではこのような迅速な対応は絶対にないです。

今、この日本は税金を活用し、公共財やサービスの提供に充てているので、私は、政府がこれからも十分な税を集め、効率的かつ効果的に活用し、安心安全が担保される日本という国のシステムを維持させていきたいと思いました。二〇二二年度の一般会計の税収は七十一兆円超と、過去三年間最高記録を更新し続けているので、これからも日本をより良い国にする為に国民一人一人社会の一員という責任感を持ち、国民や企業が納めた税金が、必要な場所、モノ、人に対して、効率的に活用できるように、私も貢献していきたいと思いました。

《八王子市議会議長賞》

夢をわたす、幸をつくる

八王子市立打越中学校
三年　前田　彩海

「税金が高い国ほど幸福度も高い」ということをテレビで言っていた。実際に、世界幸福度ランキング上位に入るフィンランドやスウェーデンの消費税は共に約二十五パーセント。現在の日本と比べ、遥かに高くなっている。なぜ、これらの国の居住者は、税による負担が大きいにも関わらず幸せに暮らすことができているのか。私は、「税金の使われ方」とそれによる「国民のお金に対する思考の変化」が関わっていると思う。

まず、フィンランドも日本も税金は主に、社会福祉や教育のために使われている。しかし、より詳しい教育費の内訳を見ると、二つの国の違いが分かる。日本では小学校と中学校までのサポートのみが行われている。それに対しフィンランドは、幼稚園から大学院までの学費が無料になっている。また、子供だけではなく労働者にも失業手当や再就職手当が充実し、不安なく暮らすことのできる環境が整えられている。あらゆる世代、状況に対するサポートの充実が国の幸福度が上がる理由の一つであると思う。

おそらく、これらの保障を受け続けているフィンランド、スウェーデンなどの国民は心に余裕が持てる。そのため、高い税金であっても「誰かのために」という気持ちを持って納めることのできる人が増えるだろう。そうしてまた、税金によって助けられた人が同じような考えを持ち、幸せのサイクルが生まれる。実際には、「幸せのサイクル」なんていう都合の良い話にならないことの方が多いかも知れない。そもそも、国としての幸福度が高いだけで、税金の高さに不満を持っている人が過半数なのかも知れない。しかし私は、税金は少なからず誰かの夢、命までを救うバトンになっていると思う。国民が納めた税金が直接助けを求めている人のもとへ届くとは限らない。けれど、一人一人がその税金をバトンのようにつないでゆけば、誰かの夢へとつながる一つの道になる。性別も年齢も異なる人達が税金を介してつながることで、唯一無二の架け橋となり得るのだ。

この作文に書いた幸福度の定義は、もちろんただの数字でしかない。「幸福」というのはその人自身でしか決められないし、他人からでは分かるはずがない。他人の幸福の定義は分からないけれど、他人の幸福をつくることなら誰にでも可能だ。その方法の一つに「税金」がある。税金とは、「国民にとっての負担」というイメージが強いが、その一方で「夢をわたすバトン」という大切な役割を担っている。この先の未来では、税金が夢を与え、夢を与えられる存在となっていることを私は頭の片隅に置き、願い続けたい。

《八王子市議会議長賞》

誰かのおかげ、誰かのために

八王子市立由井中学校
三年　山　本　理　桜

「税」について考えてみるのに、まず国税庁のホームページを開いてみました。税の学習コーナーのページを読んでいると、こんな言葉が目に飛び込んできました。「租税は文明社会の対価である。」これは、アメリカの最高裁判所判事であり法律家である、オリバー・ウェンデル・ホームズさんの言葉だそうです。この言葉から、「文明社会」のなかでも、自分の身近なところに関係のある「税」について考えてみました。

普段、何げなく過ごしていても、改めて見つめなおすと、実に様々な物事が税金によってまかなわれていることに気がつきます。私にとって一番身近な学校生活も、教科書や教室の机と椅子、パソコンや、理科室の備品、音楽室の楽器など、挙げればきりがないほど多くのものが、それにあたります。もちろん私たちが多くの時間を過ごす学校の校舎も、税金をつかって建てられています。学校をはなれた生活の中にも、公園や道路、図書館などのほか、ゴミ収集所や医療費、市役所の公的なサービスが受けられるのも税金のおかげです。私が小さい頃、突然の高熱による熱性けいれんを起こしたときに、料金を支払わずに救急車で病院まで搬送してもらったのも、税の制度があるおかげです。こうした生活に密接に関わる税金制度をみてみると、「租税は文明社会の対価である」という言葉がよく理解できます。「税」とは何か、なぜ税金が必要なのか、それらの疑問に対する答えをとてもわかりやすく、かつ、簡潔に表していると思います。

きのう駅ですれちがった人が収めてくれた所得税が学校の校舎を建てる一部になっているかもしれないし、きょう私が買った消しゴムの消費税が信号機や道路標識の設置費用の一部になっているかもしれない。そんな風に考えてみると、税金は社会生活を送る上での対価であるというのとは別の、社会の中で生きていくための助け合いという一面も見えてきます。「誰かのおかげ」そして「誰かのために」そんな一面です。

「税」とその制度を正しく理解した上で、税金を正しく収めるのはもちろん、どのくらいの金額がどんな用途に使われているかについても、関心をよせることの大切さを感じました。

《八王子市教育委員会教育長賞》

税金は「将来への起点」

東京都立南多摩中等教育学校
三年　植　山　麻　羽

私は本が大好きだ。読書が好きなのはもちろんのこと、紙の質感や本に囲まれているときの心地が好きなのである。私をここまでの本好きにしてくれたのは「図書館」だ。

両親は私が三歳のころから市民図書館に連れて行ってくれ、たくさんの絵本を借りさせてくれたそうだ。その絵本を母が読み聞かせてくれる時間が好きだった私は、少しずつ文字が読めるようになっていき、自分でも絵本を読むようになった。そして、小学校にあがってからも二週間に一度は市民図書館に行き、児童向けの小説を借りた。高学年や中学生になると市民図書館に行く機会も時間も減ってしまったが、私の本好きや読書時間は無くなることがなかった。その理由は学校図書館である。特に中学校の図書館には一万冊以上の蔵書がある。どれだけ本を借りても自分の興味が向く本がなくなることはなく、私は毎日のように図書館に足を運んでいた。

ある時ふと「市民図書館や学校図書館にある本は何のお金で買われているのだろう」という疑問を持ち、インターネットで調べた。すると、図書館にある本だけではなく図書館司書の方のお給料や図書館の設営までもが、税金でまかなわれていることが分かった。そのことを知ったとき、私の税金に対する考え方が変わった気がした。

私にとって税金は払うもので、自分に何かを与えてくれるものではなかった。何なら、ニュースや新聞を見て税金の使い道に疑問を抱くことも多くあった。しかし税金は、私たちの生活の根本的な部分、例えば水道や道路、学校などを支えてくれている。さらには生きていく上で絶対に必要ではないけれども、人生に彩りを与えてくれるものも税金でまかなわれている。そのことを知ることが、そして理解することができた。

私は将来、本に関係する職業に就きたいと思っている。その一番の理由は本が大好きなこと。そして本が好きな理由は、市民図書館や学校図書館でたくさんの本に触れてきたことだ。おそらく図書館が存在しなかったら、私は本を好きになってはいなかっただろう。

私にとって税金は自分の将来の選択肢を増やしてくれたものだ。これまでもこれからも、税金という制度によって新しい趣味や興味の世界が広がる人がいるだろう。私はこれから、私のような人を支えるためという明確な理由を持って、税金を納めていきたい。

《八王子市教育委員会教育長賞》

納税で救える命

八王子市立高尾山学園中等部
三年　江　上　いちか

二〇一一年、三月十一日東日本大震災。私は当時、三歳の子供だった。その時のことはあまり覚えていない。

東日本大震災は、東北地方を中心に十二都道府県を地震、津波が襲った大規模な自然災害である。死者は行方不明者を含め、二万二三一八名となった。被害が大きかった地域では、一瞬の隙に町が津波に飲み込まれ、昨日とは違う町並がそこに広がっていた。私は、この状況をあの日から数年後に知った。

テレビの中には、大切な人を失い悲痛な思いに苦しんでいる人、どこにいるのか、生死も分からない状態である家族を探し続けている人、帰る場所を失い避難生活を送っている人などがいた。この状況を見れば、誰もが悲痛な思いを持つだろう。しかし、そこにあったのは悲痛な思いだけではなかった。私がそれを感じたのは、前を向こうとしている人達がいたからだ。行方不明者の捜索や緊急交通路の整備をされている警察関係者の姿。人命救助をされている消防隊、自衛隊の姿。皆の中心に立ち、情報をいち早く市民に伝達している自治体の方の姿。不安な状況の心の支えとなり動いて下さっているボランティアの方の姿。みんなが支え合いながら前を向こうとしていた。その状況の中で、被災者である中学生の言葉が心に残っている。

「自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で私達から大切な物を容赦なく奪っていきました。命の重さを知るには大き過ぎる代償でした。しかし、生かされた人は顔を上げ、運命に耐え助け合って生きていくことがこれからの使命です。」

どんな状況でも、人は助け合い支え合えば前を向くことができると改めて気づかされた。と同時に、それは税についても同じ事が言えるのではないかと思った。

東日本大震災が起こった時、なぜ救助活動や支援を受けることができたのか。それは、私達国民一人一人が、法律で定められている「納税の義務」を果しているからである。それ故に受けられる恩恵なのだ。誰もが助けたいと思っていただろう。しかし、莫大な資金が必要となる為気持ちだけではどうにもできない。だが、一人一人の小さな力を積もらせて行けば、偉大な力となる。つまり、人々を助けることのできる税金として好転するのである。もし、このような財源がなければ、救えた命が救えなかったかもしれない。

このように、税金を納めれば、それが誰かの助けとなり、巡り巡っていつかの自分の助けになる。納税は、多くの人々を救うことのできる最大の支援活動と言えるのではないだろうか。

将来、自分が社会に出たら誰かを助ける大人になる為の第一歩として、税を納めようと心に誓った。

《八王子商工会議所会頭賞》

税への反発はなぜ起きる

八王子市立いずみの森義務教育学校
九年　佐藤　誠

税を納めるのは大切なことだ。税は社会にとって必要なものだ。もっともなことである。しかし、税ほど人々に負の感情を向けられたものはない。歴史上でもピューリタン革命、アメリカ独立戦争、フランス革命、島原の乱、地租改正反対一揆など、税に対し人々が不満を持っていた例は多くある。現代でも消費税導入や増税の時には多くの反対や政府批判が相次いでいた。

税がないということは国が存在しないことと等しい。税がなくなれば日本は自力救済、無秩序がはびこる無慈悲なカオスに成り果てるだろう。

税の必要性については、これまで多くの中学生が税の作文で述べている。しかし、税の大切さを理解していながら税金に悪いイメージを持つ人は多いのではないだろうか。

税は大切だ。しかし払いたくない。こういった矛盾はなぜ生まれるのだろうか。私は二つの原因があると考えた。

一つ目は税金が自分自身の利につながることを実感していないからだと思う。税金は公共事業、社会保障等に使われ、これらは納税者に多いに還元されるはずだ。しかし、自分の払った税金がいつ・どこで・どのように使われているのか具体的には分かりづらい。予算・決算等の打ち分けは分かるものの、目で見ることのできる「税の成果」は確認しづらい。人々はクラウドファンディングや投資のように「リターン」を求めている。税は十分なリターンを人々に与えているにも関わらず、そのことが人々に伝わっていない。これでは「税を払っているのに自分に益がない」「国にお金を取られているだけ」と錯覚しかねない。私はより詳細な税収・予算・決算・税金による成果を人々に示せば、より人々からの税への理解が得られると思う。

二つ目は目先の利益に気をとられ、他者を考える想像力が欠けているからだと思う。そもそも税は人々や国土、国の産業や安全、国家の運営などに使われるため、税を納めた分だけ自分に百パーセント利益が戻ることはない。自分以外の他者を助ける税は、自分自身に経済的・精神的余裕がなければ払う気になれないはずだ。国や地方は税を得るからには所得・賃金・雇用等の経済課題の改善、労働環境の改善、時代に適した教育など、人々の不満を解消していかなければならないと思う。さもなくばどんなに税が少なくても、税への不満は高まるだろう。

人々が税に対し良いイメージを持てば、税が増えたとしても反発は少ないと思う。そのためには一人一人の不満に耳を傾ける必要がある。

大きな問題に対し税が必要な今、目先の一人の不満をなくすことが税への意識を変える。それが課題多き今の原動力になると私は思う。

《八王子商工会議所会頭賞》

税金へのイメージ

八王子市立横山中学校
三年　増　渕　結　愛

中学生の私が収めている税金で唯一あるとしたら消費税であるだろう。私は税に対してあまり良いイメージはなかった。消費税が八円から十円に変わるときも、「ただでさえ小学生であまりお金を持っていないのに無駄に払わないといけないお金が増えた」と思っていた記憶がある。しかし、その考え方が間違っていたことに最近になって気づいた。

私は、この作文を書くことになって家族に「税金ってなんのためにあるんだろう。消費税とかいらなくない」と言った。そうしたら、お父さんに、

「私は税金からお給料をもらっているんだよ。私達が何不自由なく過ごせているのも税金のおかげなんだよ。」

と言われた。私のお父さんは消防士だ。つまり公務員である。公務員は、国民のみなさんからの税金によってお給料をもらえているということにこの言葉を言われて気づいた。国民の皆さんからの税金によって、私達の生活は支えられていると私は知った。

私は受験生だ。塾に行っているがたくさんお金がかかっている。しかし、両親は何も言わずに塾のお金を払ってくれている。今までにも、習いたい習い事に通わせてくれ、欲しい服、食べたい物などたくさんのことをしてもらってきた。それができていた理由の一つに税金が関わっているとは思ってもみなかった。

せっかくなのでお父さんに消防士と税金がどのように関わっているか聞いてみた。そうしたら、消防署の設立から救急車、消防車、防火服までもが税金によって賄われていると教えてくれた。

「いくら私達がいても設備がないと人々を助けてはあげられない。税金に助けられている部分もあるんだよ。」

と教えてくれた。私達が体調不良になったとき、火事になってしまったときにすぐに駆けつけてくれる消防士の皆さんと救急車、これらは税金と深く関わっている。それは消防以外の警察も、私達が受けられている教育も税金によるものである。私達が収める税金は私達の気づいていない多くのところで社会保障という恩恵を密かに与えてくれていたのだ。

最初に税金なんて必要ないと思っていた自分が恥ずかしくなった。お金がとられる、イコール嫌なことと捉えていた自分がいかに浅はかだったか思い知った。税に対する作文を書けて良かったと心から思う。書くきっかけがなければ、私は税金に対して勘違いしたままだっただろう。むしろこの整った環境、私達を守ってくれる警察や消防、平等に受けられる教育に私達は感謝しなければいけない。当たり前に整っていると思っていたものは、当たり前ではなかった。これから社会に出ていく身として、収める税金の種類も増えていくだろう。その時私が感謝をしながら税金を収められていたら良いなと思う。

《東京税理士会八王子支部長賞》

税に救われた私の左耳

八王子市立楢原中学校
三年　伊藤　環

これは私自身に最近起きた、「税」に関する経験談である。私が中学三年生になって二ヶ月ほど経った六月頃、いつものように学校から帰ってきて家で過ごしていると、気づいたら左耳に耳鳴りがしていた。はじめはすぐしなくなると思って気にしていなかったが、その逆で、耳鳴りの音はどんどん大きくなっていき、いつの間にか左耳はほとんど聞こえなくなっていた。次の日耳鼻科に行って聴力検査をしてみたら、左耳は全く聴こえていない状態、右耳も左耳の耳鳴りの影響で基準値よりも下の結果だった。耳鼻科の先生は「突発性難聴」だと私に言った。それを聞いた当初、今まで大きな病気などになったことがない私はとても怖かった。その二日後に再び耳鼻科で聴力検査をすると、良くなるどころか悪化している状態だったので、そのまま私が住んでいるあたりで一番大きい病院へ向かった。そして様々な検査をし、その病院の先生にも「突発性難聴」だと伝えられた。突発性難聴は三分の一は完全に治り、三分の一は完全には治らないが回復はし、三分の一は全く治らないというものだった。病院の先生は私に「高圧酸素治療」という突発性難聴に効果があると言われているものを勧めてきた。高圧酸素治療は日を空けずに行わないと効果がないもので、一回の治療にかかる費用は九千円程度だった。毎日続けて何回も行ったらとても高額になる。だができることはしたいという親と私の思いで、私は毎日学校を早退して五日間病院に治療をしに行くことにした。高圧酸素治療を始めて二日目の治療のあとに聴力検査を行った。結果はだいぶ良くなっていて、先生にはもう治療は必要ないと言われた。そして会計のときお支払いは必要ないと言われた。二回の治療で千八百円かかるはずが〇円で治療をすることができた。これは税のおかげである。私の家は「住民税非課税世帯」で住民税を払わなくてよい。これが関係して〇円で治療をすることができたのだ。

私の耳がはやく良くなったのはこの税の制度によって治療をすることができたからでもある。国民のみんなが納めてくれている税金のおかげで私の耳は十分に良くなった。私が払っている税は消費税ぐらいだが、ほんの少しの金額でも何かに役立っていることを知った。また、国民の全員が平等に税を納めなくてはいけないのではなく、生活が不自由な人などは一部の税を納めなくていいという制度も、国民を思った大切なことだと思った。この経験をしていなかったら私は税について無知のままだったと思う。実際に税に関する経験をしたことで、今まで何も考えずに払っていた消費税も、このほんの少しが誰かのためになるんだと考えるようになった。一人一人の納める税が少しだけでも、国民全員がそれを行えば大きな金額になる。税を納めることで誰かを救うことができるのだ。未来を変えることができるのだ。

《東京税理士会八王子支部長賞》

日本にいる誰もが呼べる救急車

八王子市立由木中学校
三年　小谷田　利　輔

「救急車を呼びましょう」倒れている人の周りに駆け寄り、みんなが戸惑っている中、その言葉が告げられた。僕が所属しているラグビーチームで朝練をしている時のことだった。コーチ方はボランティアが多く、いつも温かく背中を押してくれる。チームメイトとの練習は僕にとって一番充実している時間だ。コーチと仲間と一緒に、楽しく練習していた時、突然叫び声が上がり、その事故が起きた。久ぶりに参加してくれたコーチが転倒して、痛みに苦しんで動けなくなっていた。急いで駆け寄り、言葉を掛ける。応答はできるが、痛みで全く動けない。その姿を見て現役で消防士をしているコーチが救急車要請の判断をした。何もすることができない時間がとても長く感じた。「ピーポーピーポー」と、よく耳にするサイレンの音が聞こえてきた。いつもなら聞き流しているこの音が、何もできない僕達の緊張感を和らげた。救急隊の方たちは状況の聞き取りをして、手際よく体を固定して応急処置を行い、担架を使って救急車に乗せ、車内で搬送先の手配をし、またサイレンを鳴らして病院へ向かった。僕は初めてこんなに近くで救急隊員の活動を見て、すごいなぁと感動し、救急隊員に憧れた。今回の怪我は命に別状は無かったものの、鎖骨一本、肩甲骨一本、肋骨四本、合計六本も骨が折れていて、全治六カ月もの重症だった。

帰り道に友達から「救急車を呼ぶといくらするの。」と聞かれた。救急車を無料で利用できることは知っていたが、実際どこからお金が出ているのか知らなかったため、改めて調べてみた。すると、すべて税金によって賄われていることを知った。更に、救急車は一度の出動で約四万五千円が必要とされている。もし、四万五千円という価格が自己負担だとしたら、金銭的に余裕のない人が躊躇してしまい、命を落とすような事態が生じないために、無料になっているそうだ。しかし最近では、無料ということで安易に救急車を利用する人が増えている。その裏で、怪我や病気で本当に助けを必要とする人のもとへ行くことができなくなる。そのため、一人一人が適切なタイミングで利用することが大切だ。救急車の利用が無料な国は僅かだが他にもある。しかし、色々な条件が求められている。世界的に見て、国籍や納税の有無に関わらず、外国人観光客でも完全無料な国は日本だけだ。別け隔てなくいつでも、誰もが救急車を利用することができるこの極めて異例な制度は、僕達にとって誇らしく、素晴らしいことだと思う。この優れた医療サービスを続けるためにも、適正な救急車の利用方法をみんなが正しく知り、活動の資金源となる税金を納めることが大切だと感じた。今回の医療制度を調べたことで、納税の大切さを学んだ。そして僕自身も医療に関わる仕事に就き、人々の命を助けたいと思った。

《公益社団法人八王子法人会長賞》

税金は未来への架け橋

八王子市立由木中学校
三年　川　野　恵　都

今まで私は、税金がどんな所に使われていて、生活のどんな所に役立っているのか具体的には知りませんでした。しかし、今回税金について詳しく学んだことで税金に対する印象がかなり変わりました。私が印象に残った税金の使い道は大きく三つあります。

一つ目は教育に使われる税金です。公立学校に通う生徒に九年間の義務教育でかかっている額が一人当たり約九四五万円と知り衝撃を受けました。こんなに大きなお金は一体、どこから出ているのでしょうか？このお金は国からの支出と地方教育税と呼ばれる税金から出されていて、主に授業料や教科書代、学校の備品などに使われています。最近では学で一人一台のパソコンが支給されましたが、それも税金で買われたものです。パソコンは学校生活において授業や宿題において欠かせない存在となってきているので私達の学校生活は税金無しには成り立たないと知り、学校生活を送れていることのありがたみを改めて感じました。

二つ目は医療に使われる税金についてです。学校で毎年受けている健康診断や救急車を呼ぶのにかかるお金も税金で賄われています。それだけでなく、地域によっては診療費や薬代まで一部を助成という形で税金を使って補助してくれる場合があるのです。これは私の住む地域でも行われていて、整形外科に通うことが多い私は毎回二百円で済ませることができて本当に助かっています。税金は健康を守ってくれる存在でもあるので大切だと思うきっかけになりました。

三つ目は社会保障に使われる税金についてです。社会保障関係費については、別の視点からの驚きがありました。社会保障に使われる税金は年々増えていて、昭和四十年時点で約十四兆円だったのが令和五年には約三十二兆円に達しています。社会保障には年金や生活保護、福祉、医療費も含まれてくるので、毎日の生活に大切で必要な制度です。しかし、教育費の歳出割合は、社会保障関係費の増加に伴って減ってしまっているのです。具体的な数値で見ると、昭和四十年の十三兆円から令和五年には約三分の一の約四兆円にまで減っています。設備の整った教育を受けられている中、かけられているお金の額が下がっていることにとても驚きました。では、増えた社会保障関係費は具体的に何に使われているのでしょうか？それには少子高齢化現象が大きく関係しているということが分かりました。年々、高齢化がぐんと進み、年金や福祉体制を強化するのにお金が使われるため社会保障費の割合が増えているのです。他にも、少子化を食い止めるために子供を産みやすく、子育てしやすい環境を整えるためにも税金は使われているそうです。

税金は私達の生活を支え次の世代へ繋ぐ鍵となります。私も今の生活に感謝し、社会を支えられるような大人になりたいです。

《公益社団法人八王子法人会長賞》

税とは未来である

東京都立南多摩中等教育学校
三年　佐々木　美　遙

以前、学校の社会科見学でスウェーデン大使館を訪れた。そこで私は職員の方からスウェーデンについての説明を受けた。スウェーデンと日本には、特に文化的な面で日本と似ているところもあり、とても興味深いお話であった。その中で、スウェーデンの税や福祉の政策についてが印象に残り、後から詳しく調べてみた。

スウェーデンの税は負担が大きい。特に消費税は顕著で、標準税率は二十五パーセント、食料品や宿泊施設には十二パーセント、印刷物やスポーツ観戦、映画や旅客輸送に六パーセントがかかるそうだ。その他にも、所得税や相続税、事業主税や飛行機税、公共放送税などがある。このように様々な税がある代わりに福祉が充実しており、学費無料、十八歳以下の医療費無料、育休などの子ども手当、住居手当、社会サービス法による介護の補助制度があり、収入も高いことが分かった。さらに、若者を含めた国民全体が税の使い道についてよく見ており、選挙における投票率は八十パーセントを超えているということも分かった。

日本には現在二十三の税があるが、全体を通してスウェーデンよりも税の負担は小さい。福祉における税金の使い道としては、年金や医療費助成、介護給付や生活扶助等社会福祉の四項目で全体の約九割を占め、その次に少子化対策に割りあてられていることが分かった。

両国の税の使い道を比べると、日本はどちらかというと貧困層や低所得層を救済しているように思えた。もちろん、その用途も大切だと思うし、否定するつもりもないのだが、その他の層に対する支援が少ないように感じ、少し驚いてしまった。少子高齢化により、約五十年前と比べると、未来を担う人々の負担が日を追うごとに増す現代においては、今のような支援だけではなく、スウェーデンのような全世代に対する支援をすることも重要であるのではないかと思った。このままでは、未来をつくっていく私たちの将来に光は見えないのではないのだろうか。

今までの私は、税金について深く考えたことがなかった。しかし、今回これらのことを調べてみて、税金について考えることは自分の将来の進路を考えることと同じであるのだと気付いた。一人の納税者としても、これから未来を担っていく世代の一人としても、税のことはよく知り、よく考え、よく声を上げるべきだと思う。税金は様々な場所で耳にする身近なものだが、考える機会はそれほど多くないように感じる。周りの人と税について、私たちのこれからについて話し合ってみたい。

《八王子優法会長賞》

飼い主の意見

八王子市立由木中学校
三年　佐藤　ひまり

私の家族の一員である、人間でいう七十二歳の老犬が急遽手術を受けることになった。リスクの高い手術でありながら獣医さんのおかげで無事に終えることができたが、その後の入院費用や手術費用等で沢山のお金が必要だと知った。

当時私はペットと税金の関係性が分かっていなかった為、人間と同じように消費税が発生しないはずなのにかなり費用がかかるなと思っていた。しかし中学三年で税金の勉強をし始めている今、あることを知った。

「ペットは法律上『物』であるため医療行為を受けた場合、消費税がかかる」

私はこのことを知り他にもこのような事実があるのではと調べるとペットの火葬、ペットのご飯等も人間なら非課税や減税で消費税は支払っていないがペットの場合は「物」と解釈されてしまっているために税金がかかっていること。又、ペットが行方不明になった場合には「捜索願」ではなく「遺失物届」を提出し、落とし物扱いのようになっていることも知った。長い間愛犬と暮らし続けている身からすればペットは家庭を暖かくしてくれる存在であると思う。だからこそこのような扱いをしてしまっている私達人間が税金を通して、ペットだけでなく動物達の為になることができないのか考えた時に私の目に止まったのが、税金による犬の殺処分ゼロという活動だった。この活動の内容は私達の税金で殺処分前の犬や捨て犬を保護し健康管理を行い飼い主を探すというものである。それぞれの場面で多くの費用がかかる事は確かだが、この活動によって殺処分されるはずだった犬を助けることができる。助けられた犬の中には災害救助犬やセラピー犬として人間のために働く犬もいるそうだ。このような形で税金を支払う活動が更に増えてほしいと思う。なぜならこれは犬の為は勿論、人間の暮らしに犬が良い影響を与えてくれているからだ。しかし最後に一つの事実を知ってもらいたい。それは殺処分にも税金が使われているということだ。そもそも税金とは私達の生活を守る為に使われているはずだ。しかし私達の生活を守る為に殺処分が行われている事に私は疑問を感じる。日本には動物が大好きな人が沢山いる。私もその一人だ。しかし動物好きな人が払う税金も殺処分に使われてしまっているという事実。故に、その税金をどのようにすれば命を繋ぐ税金に変えることができるのかを考える必要があると考える。

動物は「物」ではない。私達人間の暮らしを照らす存在だ。動物に対する税金の使い方を変えられる、動物を助けられる大人に私はなりたい。これは税の作文としての意見ではなく一人の飼い主としての意見だ。

《八王子優法会長賞》

税金と無料相談所

東京都立南多摩中等教育学校
三年　福　永　つぐみ

税金について考える機会は多いですが、最近私自身が経験した出来事を通じて、税金がどのように社会によい影響を与えているのかを感じることができました。

私は家庭のことで悩んでいるとき、無料相談所に勇気を出して電話をかけました。家庭の事情が厳しく、どうすればよいのか分からないとき、無料相談所はまさに頼りになる存在でした。大丈夫だよ、勇気を出して電話をしてくれてありがとう、などと優しく温かい言葉をかけて下さり、思わず涙が出てしまいました。そして、専門家のアドバイスを受け、自分の状況を整理し、解決策を見つける手助けをしてくれました。

こうした無料相談窓口で働く方々の給与は、私たちの支払う税金から賄われているのだと知りました。税金とは単なる数字ではなく私たちの生活を支える大切な仕組みであることを実感しました。

私の場合、無料相談窓口での助けを受けて、家庭の状況は少しずつ改善しています。また、相談員の方が親身に話をきいてくれたことによって、

「自分は一人じゃないんだ。」

と思うことができました。もし私のように何か悩んでいて、周りの人に相談できない人がいたら、まずは無料で相談をしてくれるサービスに頼ることをおすすめしたいです。あなたを助けてくれる人は、必ずどこかにいるという実感を持つことができます。また、その経験があれば、また自分が困ったときや悩んでいるときに、人に相談しやすくなり、気持ちをより早く楽にすることができるようになるかもしれません。

無料相談窓口と税金の関係を考えると、私たちが税金を支払うことは、社会全体の福祉や支援に繋がっていることを再確認できます。税金は、公共事業や教育に使われるだけでなく、私のような悩みを抱える人々に対する支援を提供し、心の負担を軽くするために大切な役割を果たしているのです。

私は、この体験を通じて税金の意義を感じることができました。無料相談窓口での助けが、私の心に光をもたらし、困難な状況を乗り越える力を与えてくれました。私たちが支払う税金は、社会全体の支援や幸福を支えるために大切なものなのです。

《八王子納税貯蓄組合連合会長賞》

税金への感謝

八王子市立第五中学校
三年　久保心和

この作文を書くまで税金は私たち中学生にはあまり関係のないものだと思っていた。また、税金に関しての知識もほとんどなかった。そこでこの作文を書く前に学校でもらった税の作文を見ていた私は、毎日の生活の中の様々な場面で税金が使われていて、こんなにも助けられていることを知って驚いた。もし税金という制度がなければ、ごみが町や生活の中にあふれ、災害が起こっても何もできず、人としての生活が成り立たないことがわかった。そのことを母に話した時、母からこんな言葉を言われた。「税金のおかげといえば子どものあなたが病院で支払う金額はかかったお金よりもずっと少額なのよ。あれも税金のおかげなの、あなたが小さい頃何度か手術した時も、そのおかげで負担が少なくて済んだの。手術するにはとても高額なお金がかかっていると思うから、もしこの社会制度とか税金といったそうゆう制度がなかったらあなたはここまで元気に学校に通えていなかったかもしれないって思うことがあるわ。だから大人になったら恩返しの意味もふくめてお仕事をして、税金を払うことは大切なことだね。」その言葉を聞き、驚きと同時に感謝の気持ちになった。医療保険は、加入した人が分担し合いその中から病気やけがをした人の医療費にあてて助け合うしくみで、本来はそこでまかなうものだが少子高齢化で働き手がへっていくこと、コロナなどの様々な要因が増え分担金だけではまかなえずその不足金を税金でまかなっていることが書いてあった。また予防接種や学校の健康診断などが無料なのは税金でまかなわれているそうだ。他の国では予防接種を打つだけで予防できる病気で、沢山の子どもたちが亡くなっていることをよく耳にする。日本はこのような制度があり、子どもたちの健康や生活を税金で守ってくれることを実感した。

これからは、水道から勝手に出てくると思っていた水道水、部活の帰りに遅くなった時に明るく照らしてくれる街灯、河原の草がきれいに刈られていること、など様々なことに目を向け、これも税金なのかな?とありがたいなという気持ちをもって、毎日の生活を送りたいと思う。またこの作文を書くことで、日々の当たり前の生活はみんなのおかげでなり立っていることを感じながら、そして自分もその一員になりたいと思っている。

《八王子納税貯蓄組合連合会長賞》

税金とＳＤＧｓ

ある日、家にあった新聞を読んでいると、気になる記事を目にした。二〇二四年、つまり来年度から、「森林税」という税金が課されるとのことだ。記事自体はあまり大きなものではなく、情報が少なかった。一体なんだろう、と思い、私は森林税について調べることにした。

森林税は、正確には「森林環境税」と呼ばれる。住民税の一種で、「住民税として年間一人あたり千円を市町村が徴収する」というものだ。目的は森林の保全や林業の生産をより成長させていくこと、地球温暖化対策のためのパリ協定に向けて、というのが主な趣旨だ。

森林は土砂崩れを防いだり、水源を維持したりと、私たちに様々な恩恵をもたらしている。そんな森林を守ろうという考えはとても素敵だと思った。森林環境を保全していくことは、ＳＤＧｓの十五番、「陸の豊かさを守ろう」にも通じる。小学校で勉強したり、よく目にしたりすることで、ＳＤＧｓに対する関心が高まっていた私は良い増税だと思った。

一方、森林環境税に似たものに、二〇一九年に法が制定され、すでに令和元年から実行されている「森林環境譲与税」というものがある。これは、各市町村や都道府県に送られる財源のことだ。本来は森林環境税を渡すときの名前だけれど、環境問題は急を要するということで、税収から支払われている。森林環境の整備に使われるお金だ。

令和三年度には、総額四百億円が支払われた。しかし、森林のない市町村や使い道に困っている自治体もあり、約四十七パーセント、つまり一八八億円は使用されていないと見られている。

増税について、現在いろいろな意見が飛びかっている。増税によって社会がよりよくなるという意図はあるけれど、反面課題も考え、支払う人々のことを見据えないといけない。

もちろん、私たちも「税金を払う」という受け身の対応ではなく、森林環境税でいえば、目的である環境問題について、ごみ拾いなど、自発的に改善していくべきだと思う。例えば、地域清掃の費用に充てるなどだ。身近に環境問題と税金が関わることで、市町村も持て余すことなく、住民も自分が関わっている意識を持ち行動できる。

森林環境税に反対する声もある。しかし、それは、森林税の用途が自治体にも住民にも侵透していないことが原因だと思う。

しかし、効果的に使用している市町村も多い。例えば宮崎県では防草シートを購入し、下刈り省力化を図っている。また、森林のない江戸川区では、木造建築に力を入れ、林業の活性化に一役買っている。

新たな税には、「何ができるのか」を広く知ってもらうこと、用途の透明化が大切だと思う。そして、森林税が「陸の豊さを守る」ことに余す事なく使われてほしい。

《八王子納税貯蓄組合連合会長賞》

税のかけ橋

八王子市立第七中学校
三年　三浦　眞凛

私は、消費税、所得税、相続税など、何をするにも税金が発生することに疑念を抱くことが多々ありました。しかし、あることをきっかけに税金を納めることに喜びを覚えていました。

私が小学生だった頃、浅川をはさんで遠い場所から通学している友達がいました。その子とはとても仲が良く、放課後毎日のように家に遊びに行っていました。当時の私は内気な性格で他に友達もあまりいなかったので学校でもその子と一緒にいました。

しかし、二〇一八年に通過した台風の影響で浅川の橋が崩壊してしまいました。その橋は今まで私が友達の家に行くときに使っていた橋でした。他の橋を使えば家に行くこともできたのですが、その頃私はオスグッドという成長によって起きる膝の病気にかかっており、一つ隣の橋まで歩くのもかなり難しい状態でした。そうしてその子と遊ぶことも少なり、日に日に疎遠になっていきました。学校では唯一と言っても過言ではなかったその子とあまり話すことがなくなったのでますます孤立していきました。

しかし、中学生になり別の友達が例の友達の家で遊ぶから一緒にどうか、と私を誘ってくれました。行きたいのは山々でしたが、膝の調子はまだ良くなっておらず、橋までの移動が厳しいため断ろうとしました。けれど、崩壊した橋の修復が終わったらしく、それなら行けるのではないかと言われ、承諾しました。

そして当日、久しぶりに再会して忘れられているかと思ったら、会ってすぐ膝の心配をしてくれて、覚えていてくれたという喜びがこみ上げてきました。その後はたくさん遊んで、小学生の頃持っていなかったスマホで連絡先を交換しました。その子とは今でも連絡をしており、以前と同じかそれ以上に仲が深まった気がします。

この再会は、橋の修復なしには叶いませんでした。人間関係に限ったことではないですが、税金が使われることによってどこかの誰かが幸せになると考えると、多少消費税が上がっても高額な税金が発生しても、少しうれしくなると思います。

今日も私が納めている税金が誰かのかけ橋になっていることを願います。

《八王子納税貯蓄組合連合会長賞》

税が悪役なのか

八王子市立第四中学校
三年　水越麻尋

奈良時代の中期頃、口分田の税の負担から逃げ出す人々がいた。現在、税金と検索すると必ず「使い道　無駄」と出てくる。日本人は古来から現代にかけて税金に良いイメージを抱いているという訳ではない。

調べてみると税に対して意見は様々である。「なるべく払いたくない」という声も多い。しかし、社会保障も税が使われている。政策に税という言葉が入るだけで「反対」という姿勢が強くなるのはなぜだろうか。

最近では森林環境税が話題となった。令和六年から適用される税だ。住民税に千円増でつけられる。災害や温室効果ガス排出削減へ向けた森林の保護のために課される。メディアでは賛同されていなかった点が二つある。

一つは、総額三十パーセントは人口に従って配分される点だ。つまり、人口の多く森林の少ない区域に集められた税が多く配分されることになってしまうことになる。

二つは、今まで配分されていた森林のために使われる税が使い残されている点だ。八・九割が基金としてあてられ、有効な使い方をされていない。理由としては専門の担当職員が地方にいないからだそう。新たに森林環境税を取ってもまた無効になるのではないかという意見が難点を突いている。

確かに、徴収に不公平な点もあり、改善の余地が残ることは間違いがないだろう。しかし、主な反対意見の多くが「森林環境税自体をやめるべき」というものだった。本当に森林環境税自体をとり消すべきなのだろうか。

私は違うと思う。この場合は税を徴収するシステムを変えるべきである。配分された税を基金に回さないで使おうとする努力や、人材を雇う費用に回すべきである。森林を守るために使う税。税が悪いのではなく税を管理する手段などに問題がある。

初めに述べたように、日本人は税に対してイメージは良くない。昔から「とられる」と認識しているからではないか。税はいわば投資だと考えた。「とられる」のでなく、「自分たちのために払う」という新感覚が必要だ。我々国民が払った税は我々国民のために使われる。身の回りの物や保障も税金が関わっている。必ず、我々のために使われるものである。頭ごなしに「税金が使われる?無駄な!」と否定せず、我々が払っているからこそどこに不満を感じどこに反対なのか。そしてどこを改善したいのかを考えることが、森林環境税の導入によって日本国民に提示された、税に対する真の向き合い方だと、私は思う。

作品の中には、誤字脱字等が含まれる作品がありますが、作品の性質上、原文のまま掲載しております。